

# 令和7年度 島根県技術士会新年例会フォトレポート

島根県技術士会 広報部会

島根県技術士会では、年1回、本会に所属する技術士が日頃の研究の成果を発表する新年例会を開催しています。

本年度は令和8年1月31日（土）、出雲市のニューウェルシティ出雲におきまして、126名（会場参加81名、Web参加45名）の会員が出席し、ハイブリッド方式で開催し、8つの分科会からの共同研究と、6名の個人会員からの研究報告がありました。

今回の発表内容は「研究報告」として取りまとめられ、島根県内の主要な図書館、国立国会図書館などに寄贈されていますので、興味のある方は是非ご覧ください。



石田会長挨拶

## 【共同研究】

○は発表者

### 1. 水資源・水環境研究分科会

#### (1) 苦田ダム視察報告

##### —ラビリンス型自由越流方式と鞍部ダム一体設計の技術的考察—

○田中秀典、角谷篤志、西田修三、盛田直樹

岡山県苦田郡鏡野町に位置する苦田ダムを視察し、国内初採用となるラビリンス型自由越流方式の非常用洪水吐の技術的意義と、本体ダムと鞍部ダム（苦田鞍部ダム）の一体的設計の合理性と特徴の2点に焦点を絞り、技術士としての観点から考察を行った報告がありました。



## 2. 庭園文化研究分科会

- (1)庭園に置かれる橋 宇野真一  
(2)独楽庵の石灯ろう 原 裕二  
(3)出雲流庭園と「赤」 ○林 秀樹

出雲の人々は、緑濃い常緑樹の庭を、邪気を祓う魔よけの色である赤色で引き立たせた。

出雲流庭園の赤色の庭木の実や赤い砂は、常磐木の緑との補色対比の効果もあり、鮮やかな赤色を演出している。

今回は、この赤砂に焦点を当て、出雲流庭園の魅力と謎を解き明かす発表がありました。



## 3. 鉄道遺構研究分科会

- (1)鉄道遺構を知る・見る・学ぶの醸成に向けて  
(2)鉄道遺構研究分科会令和7年度の活動報告～16年目の活動～  
(3)続・旧三江線RC壁式多径間連続ラーメン橋（宇都井高架）

○岸根真志  
和田 浩  
酒井雄壯



鉄道遺構研究部会では、今福線研究分科会として発足以来、16年目を迎え、この間一貫して地域と連携して様々な活動を行ってきました。

人口減少が進むなか、鉄道遺構を知ってもらい、見てもらい、学んでもらうことで、「観光以上、定住未満」で地域とつながる関係人口の可能性が期待されています。

今回は、本年度の活動を中心に、旧JR三江線鉄道遺構の魅力を広く伝える取組について報告がありました。

## 4. 生物多様性研究分科会

- (1)生物多様性研究分科会令和7年度（2025年度）活動報告

○細澤 豪志、大嶋辰也、田中秀典、森脇昭子

- (2)コウノトリ「げんきくん物語episode4」

北村 清

- (3)島根半島・宍道湖中海ジオパーク散策一日御崎周辺と鳶ヶ巣山ハイキング

松井 亨

生物多様性研究分科会は「コウノトリ・トキの餌資源」について、雲南市大東町の大月谷ビオトープの餌生物調査、及びビオトープの維持管理活動を実施しています。また「島根半島」について、”火山活動に由来する特徴的な地形と、河川の働きで形成された堆積地形、およびそれらに依存する生態系の理解”を目的とし、日御崎周辺、及び出雲市北部の山城跡・鳶ヶ巣山での現地観察を実施しており、それら活動についての報告がありました。



## 5. 島根県B級遺産研究分科会

### 木コンクリート橋 山形・島根・北海道での活動

○松浦寛司

本年度は木コンクリート橋に関する活動として、10月22、23日に山形県の2橋（谷柏橋、古峯橋）について行った橋梁詳細調査の報告、12月6日に平田町の東コミュニティセンターで開催された「浜田橋の歴史と構造」のに関する説明会の報告、さらに、同月7日から9日に北海道で開催された木コンクリート橋のワークショップについての報告がありました。



## 6. エネルギー多様性研究分科会

### (1)核融合研究施設への視察報告 ○井上数夫

核融合技術は太陽を地上で再現する技術であり、燃料の豊富さ、CO<sub>2</sub>を排出しないこと、暴走反応を起こさないことなど、多くの利点があります。

本年度、愛知県土岐市に所在する自然科学研究機構（NINS）核融合科学研究所（NIFS）を視察し、核融合技術の現状と課題について意見交換を行ったことについての報告がありました。



## 7. DX研究分科会

### (1)令和7年度活動報告

○三好恵美 ○花本孝一郎

DX研究部会は、「BIM/CIM」の活用を進めるうえで必要な基礎知識の習得や課題解決を目的として、令和5年度より活動を始めています。

今年度は、建設コンサルタント関係者、施工関係者、行政関係者など様々な立場の技術士からテーマを募集し、意見交換等を中心とした活動を行っています。

今回、設計業務等の事例紹介として「フォトモニタージュや3次元CGを活用した事例」、「詳細設計で設計照査につながる干渉チェックに活用した事例」、施工者の立場から「出来形計測作業省力化への取組」、「BIM/CIMデータの施工サイクルへの活用」、地質調査業務の事例として、「地質調査業務成果の事例」「排水路改修事業に伴う3次元地質モデルと計画CGの作成事例」などのテーマについて意見交換を行ったことの報告がありました。



## 8. 潜水橋利用者研究分科会

### (1) 潜水橋と利用する人々の暮らし（令和7年度の活動報告）

○佐々木慶一



潜水橋分科会は、潜水橋の構造面調査（ハード）に限らず、歴史面調査（ソフト）も交えた「住民生活を切り口とした研究」をテーマとしています。

活動初年度である本年度は、斐伊川本川の下流域3橋（島村橋、井上橋、山田橋）について、現地調査と歴史調査の一部を行っています。

今回は、分科会の設立～現地調査や歴史調査の結果、今後の活動予定などについての報告がありました。

## 【個人研究】

## 9. 日本草創期における広域測量と地図

○吉田 薫

富士山・大山・高千穂峰を結ぶと巨大な二等辺三角形が形成されます。

三山には一連の神話・伝承があるので、当時も位置関係を把握するような広域測量の技術と地図（枝図と想定）があったのではないかという考察をもとにした研究の報告がありました。



## 10. 手解体による古民家空き家の資源化

### ～「空家」という課題を資源に転換するビジネスモデルの構築

○守山基樹



古民家を対象に、職人の手仕事による「手解体」で良質な建材を改修・再利用し、廃棄物処理費用の削減と所有者の負担軽減を図るビジネスモデルを構築した事例について発表がありました。

実証実験の結果、建材の地域内循環や、愛着ある家を取り壊す所有者の心理的抵抗感の緩和といった成果が確認されたことの報告がありました。

## 11. 南海トラフ地震と平安時代に出雲で発生したM7地震

○長嶺元二



出雲の住人には、自分たちには立派な神様がついているので安全、という思いがどこかにある。しかし、平安時代には仁和南海地震の8年前に出雲でM7クラスの地震が発生していること、また、昭和南海地震では島根県に9人の死者がでるほどの影響があったことを踏まえ、南海トラフ地震が島根県民にとっても決して他人ごとではないということを啓発する報告がありました。

## 12. 生成AIを活用した研究報告書作成の効率化について

○田中秀典

水資源・水環境研究分科会で、2025年度に視察をした苦田ダムの報告書作成において、生成AIを活用し、構成案作成や文書化をAIが補助することで、研究分科会の視察報告書作成の効率化と品質向上を図った事例について、報告がありました。



## 13. 「超小型原子炉4S炉」に対する新たな第三者評価出現

○井上祥一郎

～第54回日韓技術士国際会議in新潟での韓国側への情報発信～



東京電力福島第一原子力発電所の事故の後、日韓技術士会議のエネルギーを含む分科会での「原発」議論で、韓国側は技術対象として前向き、日本側は避けて通るとの印象がある。

第47回釜山大会でのアメリカ生まれ日本育ち「トリチウム熔融塩炉」紹介に続き、筆者には3人目となる「日本産安全炉超小型原子炉4S炉」の異色の第三者評価者「認知科学者 苦米地英人」を紹介する報告がありました。

## 14. 山陰道に関する年寄り技術者的心配ごと

○村上英明



山陰道は、地元民の宿願の道路であり、現在8割が開通して来たが、松江市から浜田市までの約110km以上もパーキングエリアがないことや、無料区間と有料区間が混在するうえ、複雑な線形となっていることなど、不都合な点が幾つも見られる。

誘発交通や中国道・山陽道から転換してくる大型の長距離輸送車の運転手が疲れることによる、交通事故の発生を心配し、問題提起をする報告がありました。

なお、新年例会後の懇親会においては、平成23年から平成29年まで島根県技術士会会長を務められた林秀樹技術士に対して、石田会長より感謝状の贈呈がありました。



以上